

# ART bee HIVE

アート ビー ハイヴ

(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします!

次年度の「みつばち隊」募集!! 区民記者として活動していただく方を募集します。詳細は1月下旬に協会ホームページにて公開!

紙面で紹介しきれなかった情報をWEB版「+bee!」で掲載しています。



紙面と連動したTV番組「ART bee HIVE TV」も発行月に放送しています。



①長唄『楊貴妃』(日中競演公演) 藤蔭静枝さん ②おおた和の祭典2019(大田区民プラザ) 日本舞踊体験ワークショップ ③長唄『鞍馬』猿曳き(国立劇場) 藤間掬穂さん ④山川芳子 箏・三弦リサイタル(紀尾井ホール) ⑤邦楽DVD撮影(川崎能楽堂) 福原鶴十郎さん ⑥おおた和の祭典2019(大田区民プラザ) 小鼓体験ワークショップ ⑦おおた和の祭典2019(大田区民プラザ) 箏体験ワークショップ  
撮影:①ビデオフォト・サイトウ

## 子どもたちの興味を未来につなげたい。

大田区日本舞踊連盟会長・藤蔭流三世家元 藤蔭静枝さん、副会長 藤間掬穂さん  
大田区三曲協会会長 山川芳子さん(箏・三絃・胡弓教授) 大田区邦楽連盟会長 福原鶴十郎さん(邦楽囃子)

大田区には独自の伝統文化が残り、日本を代表する伝統文化の継承者が数多く暮らしています。各種保存会・団体が精力的に活動し、3人の人間国宝の方がお住まいです。さらに、伝統文化を子どもたちに継承するために、地域や学校で盛んに指導が行われています。まさに大田区は伝統文化にあふれる「和のまち」なのです。

藤蔭「私の子どもの頃は、ごく普通のお嬢さんもお行儀や躰の意味もかねて、ほとんどの方が何かお稽古事をされていました」。山川「私は6歳頃に箏を習いはじめました」。藤間「昔は今のようにやるのがそんなに多くなかった。踊りの先生がいたら踊りのお稽古に行こうかな、お箏の先生がいたらお箏をやろうかな、鼓をやろうかなって」。福原「町にお三味線の音とかがごく自然に流れていました。町内ごとに必ず先生がいました」。昭和の頃には芸事が身近にあったそうです。

近年では、お稽古をする子どもたちは減ってしまし

たが、各団体と学校との連携が進み始めています。特別授業やクラブ活動での指導が実り、各団体の演奏会に生徒さんたちが参加するまでになっています。

今年、和のイベント「おおた和の祭典」がコロナ禍の中、2年ぶりに対面で開催されます。藤蔭「今回は親子で参加する企画もありますので、親御さんもお子さんと一緒にコミュニケーションを取れるというか、そうした楽しみもあるんじゃないでしょうか」。藤間「踊りはもちろんですが、お子さんと親御さんが一緒に着物の着方やたたみ方など、そんなところから覚えていただければいいなと思っています」。山川「子どもたちがすごく興味を持ってくれるんですね。同じ子が何回も並んで習いに来ってくれる。そうした興味を未来につなげたいと思っています」。福原「おおた和の祭典は大変貴重な場ですので、是非継続してやっていただきたいと思っています」。



左から 福原さん、藤間さん、山川さん、藤蔭さん

おおた和の祭典2022  
和をつなぐ〜和つく和つくな学び舎  
1月8日(土)〜3月19日(土)  
※一部コースでは追加募集を行っています。詳細はお問合せください。  
☎03-3750-1611



成果発表会+邦楽と日本舞踊の出会い  
3月19日(土) 16:00  
前半:邦楽器コース参加者発表  
日本舞踊コース参加者発表  
後半:講師陣による演奏・演舞の披露  
※成果発表会は、オンラインにて無料配信を予定しています。詳細は2月上旬頃、大田区文化振興協会ホームページなどにてご案内いたします。

ア  
ー  
ト  
な  
人

## ご指導、お引立、ご後援の賜物にて

# 竹本葵太夫

歌舞伎義太夫節「竹本」太夫／人間国宝

歌舞伎の義太夫狂言<sup>\*1</sup>に欠かすことのできない竹本<sup>\*2</sup>、その太夫である竹本葵太夫さん。長年の研鑽が認められ、2019年、重要無形文化財保持者＝人間国宝に認定されました。「ありがたいことですが、ただ実演を磨くだけでなく、後進をしっかり育てよとはっぱをかけていただいたのだと思います」。

ご出身は伊豆大島。「芸事とは無縁のところ生まれ育ちましたが、きっかけはテレビの歌舞伎の舞台中継でした。いっぺんでその魅力に取りつかれてしまいました」。中学2年生の時に初めて歌舞伎座で歌舞伎を観劇した葵太夫さんは竹本の太夫の熱演にぞっこんになったのだそうです。「本格的な義太夫節は曲の全てを太夫が思い通りに語ります。歌舞伎の竹本は俳優のセリフ以外を担当する部分品的存在ですから、俳優の気持ちを察しながら自分を出す…という点で難しいです」。

中学生の心臓をがっちりつつかんだ竹本。それはもしかしたら天の配剤だったかもしれません。「歌舞伎のご挨拶の常套句で『ご指導、お引立、ご後援の賜物にて』という言い方があるのですが、私はそのいずれにも恵まれたと思っています。私が竹本に魅せられたころに国立劇場で竹本の研修制度が始まり、私はそこで数多くの優れた先人のご指導を受けることができました。また舞台に出るようになってからは、時代を代表するような名優たちが抜擢してくださり、お引立、つまり発表する場を与えていただいた。その結果、ご後援いただくことも叶った。それはもう、私個人の努力を超えた運の良さだと思っています。後進とともに前進。それをモットーに励んでまいります」。

大田区とのお付き合いは22歳の時から。「新婚の頃に区内に居を構えてから40年近く大田区民です。ただ、忙しさに紛れてあまり境界のことを知らなかったんですね。それがコロナ禍で早朝散歩に精を出しまして、周辺のすばらしさを知りました。東海道に貫かれて歴史的な名所が様々ある。歌舞伎と縁のある旧跡もあって、つい川崎まで歩いてしまったこともありました(笑)」。

文：矢口由紀子

\*1 もともとは人形浄瑠璃のために書かれ、後に歌舞伎化された作品のこと。登場人物のセリフは俳優自身によって語られ、それ以外の状況説明部分の多くは竹本が担当する。  
\*2 義太夫狂言の演目のナレーションを語る太夫と三味線弾きのこと。舞台上手にある床で太夫と三味線弾きが並んで演奏する。



国立劇場の研修生出身で初の人間国宝になられた葵太夫さん

©KAZNIKI



公演中の葵太夫さん

### 研修生募集

独立行政法人 日本芸術文化振興会(国立劇場)では、歌舞伎俳優・竹本・鳴物・長唄・太神楽の研修生を募集しています。詳しくはHPにて。

🏠 [www.ntj.jac.go.jp/training/trainee.html](http://www.ntj.jac.go.jp/training/trainee.html)  
☎ 03-3265-7105

### 竹本葵太夫 Takemoto Aoidayu

1960年生まれ。1976年女流義太夫の太夫・竹本越道に入門。1979年初代竹本扇太夫から、扇太夫の前名の竹本葵太夫を二代目として許され、国立劇場「仮名手本忠臣蔵」五段目で初舞台。1980年国立劇場第三期竹本研修修了。竹本の一員となる。2019年重要無形文化財保持者(個人指定)に認定される。

## 商店街 × アート

vol.7

大田区内の商店街にあるアートスポットやイベントを紹介します。



食卓をイメージしたコーディネート

### くらしの器「田園調布いちょう」

📍 大田区田園調布 3-1-1 ガデス田園調布ビル 2F

🚶 東急東横線・目黒線「田園調布駅」下車 徒歩2分

🕒 11:00-18:00 (休) 日曜 ☎ 03-3721-3010

🏠 [www.ichou-jp.com](http://www.ichou-jp.com) 📷 [ichou\\_tokyo](https://www.instagram.com/ichou_tokyo) ✉ [info@ichou-jp.com](mailto:info@ichou-jp.com)

※個展や催し物期間中は営業時間・定休日共に変更する場合があります。

じっくり少しずつでも多くの方に  
上質な日本文化を伝えていきたいです

田園調布駅の旧駅舎を通り抜けて右へ、交番のある道を進み酒屋さんの隣のビルの2階にあるのが、くらしの器「田園調布いちょう」です。1980年オープンの日本各地の手作り食器を扱う専門店です。「お店の名前は田園調布のいちょう並木から付けました」と話すオーナーの守屋公子さん。娘さんの柘内千世さんと二人でお店を運営しています。

「器は毎日使うもの。気軽に使えて、かつ上質なものがいいですね。家庭ならではのおしゃれな食卓を提案しています」。取り扱う作品は器作りを中心に活動している作家のもの。「食器は道具ですから、使い勝手が大切です。ちょっとしたサイズ感や深さがとても重要。どんなに有名なアーティストでも片手間にできるものではありません」。

## くらしの器「田園調布いちょう」

「気が付けばオープンしてもう40年が経ちました。じっくり少しずつでも多くの方に上質な



オーナーの守屋さんと柘内さん ©KAZNIKI

日本文化を伝えていきたいです。田園調布という敷居が高く思われがちですが、ぜひ気楽に来ていただけたらと思います。2月25日から、薪窯で創作する陶芸家・光藤佐個展が開催予定です。

光藤佐個展 2月25日(金)～3月5日(土)

🕒 11:00～18:00 (休) 会期中無休

※新型コロナウイルス感染防止のため、予約が必要な日や時間帯を設ける場合があります。

# 池上梅園の茶室

梅の季節はもちろん、一年を通じて四季折々の樹木や草花を楽しめる閑静な庭園、池上梅園。そんな園内にはもう一つ大きな魅力があります。それが今回紹介する二つの茶室です。

## 清月庵

園の入り口から近い方の茶室が清月庵です。美人画を得意とした日本画家・伊東深水の自宅兼アトリエや陶芸家で美食家としても知られる北大路魯山人邸を設計した数寄屋建築設計家の川尻新吉・川尻善治親子が自宅に建てた離れ家でした。川尻家は、大正の一時期、池上門前で温室園芸と料理屋を営み、その一角にこの離れ家を建てました。その後、マンション建設が計画され取り壊される予定でしたが、保存運動が起こり、保存に尽力された大田区在住の華道・茶道家の中島恭名さんが買い取り、大田区へ寄付されました。

池上梅園の北半分はかつて伊東深水の自宅兼アトリエで「月白山荘」と呼ばれていましたが、戦災で焼失してしまいました。大田区は、深水・善治の両氏とゆかりの深いこの梅園に茶室を再建して「清月庵」と命名し、平成元年から9畳と5.5畳の2部屋からなる茶室として公開しています。うぐいすネットで予約し、利用することが可能です。



清月庵外観



9畳の間



5.5畳の間

## 聴雨庵



聴雨庵外観



9畳の間



7畳の間

奥側に立つもう一つが聴雨庵。3畳、7畳、9畳の3部屋からなる茶室です。政治家で実業家の藤山愛一郎所有の茶室でしたが、昭和58年に藤友倶楽部から大田区に寄贈されました。

藤山の芝白金の自宅には3棟の茶室があり、各国の大使公使や海外の来賓を招くなど民間外交の実をあげた所でもありました。戦時中の昭和19年にはこの聴雨庵の中で、東条内閣打倒密議が岡田啓介・米内光政・末次信正ら3人の海軍大将を集めて行われました。多くの政財界の要人が利用した茶室です。

聴雨庵の名前の由来は、「静かに雨の音を聞きながら、茶を楽しむ」という漢詩からつけられたとされています。また、愛一郎の父藤山雷太翁が号を「雨田」と称したところからつけられたとも言われていますが確認はありません。うぐいすネットで予約し、利用することが可能です。

### 茶室のご利用について

大田区公共施設利用システム「うぐいすネット」で予約ができます。  
[www.yoyaku.city.ota.tokyo.jp/](http://www.yoyaku.city.ota.tokyo.jp/)  
 施設に関するお問合せ：池上梅園事務所 ☎03-3753-1658

### 大田区立池上梅園

📍 大田区池上2-2-13、池上2-3-2  
 🚶 東急池上線「池上駅」下車 徒歩20分 都営地下鉄浅草線「西馬込駅」下車 徒歩10分  
 🕒 9:00-16:30(入園は16:00まで) ☎03-3753-1658 🗳 大人(16歳以上65歳未満)100円 小人(6歳以上16歳未満)20円  
 📅 2月・3月を除く月曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始

撮影：KAZNIKI

## アートレガシー in おおた vol.6

大田区内にある文化財にスポットを当て紹介します。



天児屋根命舞

## 禰宜舞 天祖神社

📍 大田区西嶺町4-10

西嶺町の天祖神社では毎年4月21日の例祭で、神楽の一種である「禰宜舞」が奉納されます。舞を納めるのは川崎市・白幡八幡大神の神主で、代々神官を務める小泉家によって一子相伝で継がれています。川崎市指定文化財「市重要習俗芸芸」となっており、白幡八幡大神および天祖神社を含む近隣数社の夏祭りや例大祭で、氏子の家内安全を願い奉納されています。禰宜舞の由来や伝承に関する記録はなく、起源はいつ頃になるのかわかりませんが、文化・文政年間(1804~30)に編まれた『新編武蔵風土記稿』「神主小泉信濃」の項に現在の禰宜舞にあたる神楽についての記載があり、江戸時代から続く神事であることが知られます。

天祖神社では社殿前に敷いた奠座の上で次の6

つの演目が舞われます。①祓いの舞 ②猿田彦命舞 ③天宇受売命舞 ④天児屋根命舞 ⑤彦火火出見命舞 ⑥大山祇命舞 すべて無言で舞う神主の一人舞で、囃子で使う楽器は太鼓のみです。①以外では面を付けて舞い、⑥では参拝者に餅がまかれます。禰宜舞の終了後は、釜で沸かしたお湯の飛沫を浴びて無病息災を祈願する「お湯花(湯立て)」も行われます。

平成30年(2019)の開催を最後に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2年連続で中止となっています。2022年以降の開催予定など、実施の詳細は大田区御嶽神社(北嶺町37-20)までお問い合わせください。

文：花澤明優美(大田区教育委員会 文化財担当)

📍 大田区教育委員会 文化財担当 ☎03-3777-1281

# 注目EVENT

OTAアート・プロジェクト  
《マチニエカク》第3弾  
2月26日(土)~3月12日(土)



加藤智大『鐵茶室 徹亭』2012 ©川崎岡本太郎美術館

当プロジェクトは、大田区のマチなかに現代アートを展示し、新たな風景を創出します。第3弾のアーティスト・加藤智大さんは、鉄という素材にこだわった表現を模索しています。本展では、2013年度「第16回岡本太郎現代芸術賞」を受賞した代表作『鐵茶室 徹亭』を展示します。用の美と茶の湯が、現代美術作品に結晶した傑作です。

📍 HUNCH(大田区西蒲田7-61-13)  
🆓 無料 ※日時指定予約制・呈茶は有料 予約方法や詳細などは、協会ホームページでご確認ください。  
🏠 (公財)大田区文化振興協会、大田区 ☎ 03-3750-1611

## ご存知ですか、アートなお守り

お正月といえば初詣。神社仏閣を訪ねる機会が増える季節です。おみくじ、御朱印も楽しみですが、アイデアを凝らした個性的なデザインのお守りもあります。そんなアートなお守りをいくつかご紹介します。

### 池上寛相寺



1550年に江戸馬喰町にて開創された寛相寺は、1923年に池上へ移り今に至ります。一人ひとりの願いや悩みに応じて作るオーダーメイドのお守り「OMAMO」を授与しています。「OMAMO」は、一人ひとりの願いに合わせて、それぞれに意味がある伝統的な日本の柄を組み合わせ、ご祈禱したお守りです。すぐにお持ち帰りいただけるお守りもごございますので、ぜひお参りください。

📍 大田区池上2-10-17 ☎ 03-3751-4056 🏠 ikegamijissouji.jp/  
🚗 東急池上線「池上駅」下車 徒歩12分、  
都営地下鉄浅草線「西馬込駅」下車 徒歩10分

### 新田神社



御祭神は南北朝時代の武将新田義興。樹齢七百年、櫻の御神木や「破魔矢」発祥の地として知られています。「開運の神」としてまつられた新田義興公が、少将局と巡り会い、仲良く過ごされたという逸話を元に、グラフィックデザイナー浅葉克己さんが素敵な人と素晴らしい恋愛ができるよう願いを込めて、石の彫刻「LOVE神社」と「LOVE守」を作りました。

📍 大田区矢口1-21-23 ☎ 03-3758-1397 🏠 nittajinja.org/  
🚗 東急多摩川線「武蔵新田駅」下車 徒歩3分

### 成田山圓能寺



室町時代末・元亀2年開創。成田山に古くから伝わる身代御守を現代的にリ・デザインしたお守りです。身代御守だからこそ、いつも身につけてもらいたいという思いから生まれました。圓能寺の「圓(円)」をモチーフにしたドット柄とシンプルなロゴのみが描かれたお守りは、モダンで洗練された印象を与えます。ドット柄には「たくさんの良い縁(円)がありますように」という願いも込められています。

📍 大田区山王1-6-30 ☎ 03-3771-1229 🏠 ennoji.or.jp/  
🚗 JR京浜東北線「大森駅」北口(山王口) 徒歩3分

## OTAアートミーティング アート活動のススメ@大田区 ～商店街×アート編～

文化・芸術活動の情報共有や、新たなネットワークづくりの場「OTAアートミーティング」。今年度は、《商店街×アート》をテーマに、商店街で活動する方々をお招きします。商店街だからこそうるアート活動の意義や秘訣などを伺いながら、アートによるまちづくりについて一緒に考えていきます！

🌟 3月上旬ごろ  
オンラインで生配信予定！  
詳細は決まり次第、  
協会HPにてお知らせします。

参加申込みはこちら



🏠 (公財)大田区文化振興協会 ☎ 03-3750-1611

\*本紙掲載の注目イベント情報につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今後中止または延期となる可能性がございます。最新情報は、各問合せ先または協会ホームページにてご確認くださいませようお願い申し上げます。

📍 = 開催場所 / 🕒 = 開催時間 / 🚗 = アクセス / 🏠 = 休館日・定休日 / 💰 = 料金 / 🏠 = 主催 / 🗨 = お問合せ / ☎ = 電話番号 / ✉ = メール / 🏠 = ホームページ

## 発見！街角アート みつばち隊の皆さんが、大田区内の街角で見つけたアートなモノ・バショ・コトを紹介するコーナーです。



### 近所でアート鑑賞、御嶽神社社殿彫刻

みつばち隊：久が原のインコさん

御嶽神社の社殿は天保時代の宮大工・藤原篤憲による彫刻が施されており、大田区指定文化財である。多くの美術館が来館を予約制にしている今でも、近所で気軽に鑑賞できるアートだ。この神社は木曾の御嶽神社の分社で、現在も関東の山岳信仰の拠点である。彫刻を見ながら社殿をぐるりと回れば、遠方の霊山に寄せる強い信仰心が伝わり、コロナ禍で気軽に行けなくなった県外への思いが募る。



### 旧マミ会館は岡本太郎作品だった

みつばち隊：山王すばさん

JR大森駅西口近くのマミフラワーデザインスクール。マミさんの、四季折々の植物やお洒落なウィンドウを見ながら駅に向かうのが、通勤時の楽しみです。現マミ会館は青いタイルの柱が印象的ですが、2000年に老朽化で取り壊されるまで、岡本太郎デザインの建物だったと知りました。「現存していたらこんな感じかな」など、想像の楽しみも増えました。会館内には岡本太郎作『坐ることを拒否する椅子』があり、どなたでも見学可能です。



写真協力：マミフラワーデザインスクール  
旧マミ会館 現マミ会館

## 編集後記



みつばち隊：馬込RINさん

以前、幼いころから篠笛を吹き、製作者になった人取材しました。気負うことなく、伝統の技に研鑽を重ねている姿を思い出します。伝統芸能は、演ずる人とそれを支える人がいてこそ受け継がれると思います。この先も続きますように。



みつばち隊：桜坂ココロさん

コロナ禍以前は風向きによって時折、浅間神社のお囃子の調べが聞こえて来ました。6月のお祭りを囃し立てる音色です。大晦日の除夜祭では、お焚き火を背に神楽殿で奏でられるお囃子にも鎌倉時代の息遣いを感じ、心が踊ります。



みつばち隊：大森の黒一点さん

池上本門寺のお会式は日蓮聖人が亡くなられた10月13日前後で行われる、江戸時代から続く盛大な行事です。12日には総勢3000人も万灯練行列が池上の街を深夜まで練り歩きます。お会式が来ると「秋が深まった!」と実感します。



みつばち隊：ノルウェイの大森さん

久が原で蒲田切子というグラスを見つめました。大田区の町工場のものづくり精神を受け継いだ、切子細工ながらも日常使いのグラスとのこと。まだまだ落ち着かない世の中、せっかくなので家のグラスを新調してみたいと思います。



みつばち隊：Mmeココ! 山王さん

商家育ちの母に連れられ西の市で新年のために熊手を買ったものでした。商売繁盛を願う人々の活気と明るい電球に浮かぶ屋台に架けられた華やかな熊手、忘れられない光景です。ここ大森神社の西の市を見て懐かしくなりました。



みつばち隊：鶯の木のハチドリさん

お正月の頃、多摩川土手では今も人々が風揚げをする風景が見られます。区外出身の私は、大田区の伝統工芸品「六郷とんぼ凧」を最近知りました。かつては河川敷に干した干物を狙う鳥避けとしても活躍し、民謡・大森甚句にも謡われています。



みつばち隊：大森のgnocchiさん

大田区で溶接の仕事をしている方が、その技術を活かしてネジで可愛らしい犬型の人形を作っていることをTwitterで知りました。こういった遊び心によって大田区の町工場のことが広まっていったら素敵だなと思いました。



みつばち隊：宝来とかげさん

重要無形文化財「型絵染」の人間国宝・芹沢銈介は、1934年から亡くなる1984年までを、主に蒲田で暮らしました。当時の住居と工房は故郷の静岡市立芹沢銈介美術館に移築。制作活動の痕跡が残されていないことが惜しまれます。



編集長：MOJOさん

お正月発行ということで今号は伝統芸能の特集です。取材でお会いした先生方皆さんに共通するのは、その所作の美しさです。振り返って我が身を見つめ直してみれば、背中には曲がり正座もろくにできず、なんとも恥じるばかりです。

発行：公益財団法人 大田区文化振興協会

〒146-0092 大田区下丸子3-1-3 ☎ 03-3750-1611 ✉ art-bee-hive@ota-bunka.or.jp 🏠 www.ota-bunka.or.jp/

🐦 ota\_bunka

📷 otabunkaart

📺 大田区文化振興協会チャンネル

🗨 大田区文化振興協会

編集・デザイン：MOJOWORK

ART bee HIVEの  
詳しい情報はこちら

